2026 年 11 月 24 日
日本船主協会 企画部広報室

海運の重要性を学校教育の場で
～幸手市内の小学校で出前授業を実施～

当協会は、日本の暮らしと産業を支える海運をはじめとする海事産業の重要性を学校教育において取り上げていただくよう、海事施設の見学会や出前授業の実施等に取り組んでいます。

11 月 4 日（水）に、埼玉県幸手市立行幸小学校の 5 年生 28 名を対象とする研究授業の中で海運についての授業を行いましたので、その模様をお知らせします。同授業は、埼玉県教育委員会の主催する中堅教諭等資質向上研修の一環として行われ、当日は埼玉県の教員 12 名が授業を見学しました。

授業冒頭では、身の回りのもののうち、どれが外国から運ばれているものを問うクイズを通じて、資源の少ない島国日本にとっては貿易が重要であり、その貿易量の 99.5%を担う海運は我々の生活に必要不可欠であることを説明しました。圧倒的な輸送割合を知った児童からは、驚きの声が上がりました。


当協会の説明の様子

続いて、既に授業で学んだ自動車産業を例に、船で自動車部品となる原材料の多くを輸入し、日本でその部品を組み立て生産した自動車を船（自動車船）で輸出していることを紹介しました。

更に、船にはばら積み船やタンカー、コンテナ船、自動車船のように、貨物の種類に応じた様々な種類があり、効率よく大量に運ぶための工夫がされていることや、大量輸送による輸送コストや環境負荷の低減といった海上輸送の特徴についても触れました。


グループワークの様子

授業の最後には、今後の学習で調べたいことについて話し合うグループワークが行われ、児童からは「他にどんなものを輸出・輸入しているのか」「他にはどのような輸送方法があるのか」といった意見が出ました。

当協会は、出前授業等を通じて、海運をはじめとする海事産業を学校教育において取り上げていただけるよう引き続き活動を展開してまいります。

以上